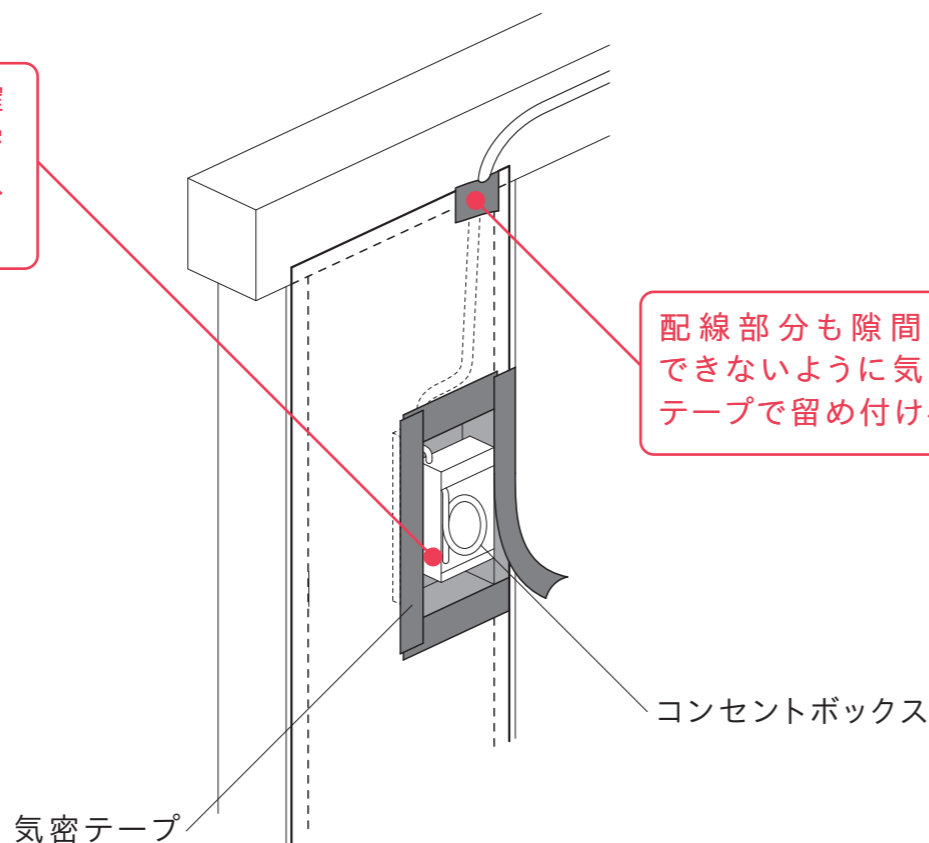


! 補足説明7 - コンセントボックス、スイッチボックスまわりの納まり

防湿性、気密性を確保するために、気密コンセントボックスカバーを使用する

配線部分も隙間ができないように気密テープで留め付ける



- ・コンセントボックスやスイッチボックス等を外壁に設置する場合は、防湿フィルムの一部をはがしながらグラスウールを充填する。気密コンセントボックス部分の防湿フィルムは切り取る。
- ・コンセントボックスカバーのまわりや配線取合い部に隙間ができないようにグラスウールを充填し、隙間にはグラスウールの端材を詰める。
- ・最後に、気密コンセントボックスの周囲の防湿フィルムを気密テープで留め付ける。
- ・配管等が外壁や床、天井を貫通する場合は、グラスウールの端材や発泡ウレタン等で隙間を埋めること。

出典：省エネ講習会資料作成WG監修『住宅省エネルギー技術施工技術者講習テキスト(施工版)平成28年省エネルギー基準対応』木を活かす建築推進協議会、2016年

断熱・気密ナビ(dankinavi.jp)に掲載のテキスト・図版などの著作権は、その著者・制作者およびYKK APに帰属します。無断での転用・転載は禁止させていただきます。同サイトで掲載している納まりは参考図です。この納まりに基づいた施工によって生じた不具合または損害などについては、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。同サイトにおいて提供する情報は、2017年10月現在の情報に基づいた参考情報であり、具体的な法的または技術的アドバイスを提供するものではありません。

【参考文献】国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修『温暖地版 自立循環型住宅へのガイドライン』一般社団法人建築環境・省エネルギー機構、2015年
省エネ講習会資料作成WG監修『住宅省エネルギー技術施工技術者講習テキスト(施工版)平成28年省エネルギー基準対応』木を活かす建築推進協議会、2016年
『断熱工法について 天井の断熱施工(桁上断熱)』ガラス繊維協会ウェブサイト